

令和5年度（2023年度）

第2回熊本県立美術館協議会資料

令和6年度（2024年度）

熊本県立美術館本館 事業計画（案）

ア	展覧会活動について	P 2
イ	教育普及活動について	P 10
ウ	永青文庫振興基金事業について	P 12
エ	改修工事について	P 13

ア 展覧会活動について

I 常設展

1 第Ⅰ期コレクション展

[細川コレクション]

装・よそおい—武家女性のファッション

会 期 令和6年4月16日（火）～6月23日（日）

会 場 本館別棟展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

担 当 者 才藤 あずさ

内 容 ファッションはその時代を生きる人々の求めに応じ様々に変化してきた。特に江戸時代は、染織技術の向上により多様なファッションが生まれたが、庶民たちが様々なデザインの装いを楽しむ一方、武家女性のまとう小袖には流行に関わりなく古典的で格調高い文様が用いられた。

本展では、細川家伝来の美術工芸品を中心に武家女性のファッションを紹介する。華やかな刺繍がほどこされた小袖や帯の他、化粧の際に用いた化粧道具などを展示。また、藩主夫人の肖像画や小袖のデザインを描いた雛形、通過儀礼に関する文書などを通じて、武家女性の装いの世界を紹介する。



《白地唐扇花卉模様小袖》

当館蔵

関連行事 5月25日（土）ミュージアムセミナー

講師：才藤 あずさ（当館学芸員）

[美術館コレクション]

第1室 細川家の歴史と美

第2室 近代日本画と熊本の美術

第3室 エコール・ド・パリと近代洋画の名品

会 期 令和6年4月9日（火）～6月23日（日）

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 金子 岳史

内 容 熊本県立美術館は、古代から現代まで、東洋から西洋までの様々な分野の美術品等を収蔵し、寄託されている細川コレクションもあわせると、そのコレクションの幅の広さは全国的にみても有数の公立美術館である。美術館コレクション展では、細川家伝来の甲冑、大名道具、屏風絵や、熊本ゆかりの書画、仏教美術、陶磁器、漆芸、今西コレクションの浮世絵、戦後美術、フランス近代絵画、西洋版画に至るまで、当館の幅広いコレクションを紹介する。



《老松牡丹図屏風》 永青文庫蔵 当館寄託

2 第Ⅱ期コレクション展

[細川コレクション]

憧れの隠居

会 期 令和6年7月17日（水）～9月23日（月・祝）

会 場 本館別棟展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送

担 当 者 金子 岳史

内 容 現代において「隠居」というと、少なくとも華やかなイメージはないだろう。しかし、近世以前の文人的な価値観では、山奥に隠居して風景を愛でながらひっそりと生きることが憧れであり、山水画などもそういった視点で描かれたものが少なくはない。とくに江戸時代後期になると、実際に趣味に興じる理想の隠居生活を実現する武士たちも多数あらわれるようになる。中でも、宇土支藩主・細川興文は、隠居が許される5年前から自らの隠居所・蕉夢庵の計画を立て、その庵や周辺の風景を江戸の画家・渡辺玄対に描かせ、さらに交友のあった各藩の大名や儒学者たちに題や漢詩を寄せてもらうほどの念の入れようであった。晴れて蕉夢庵で隠居が叶うと、悠々自適に書画や尺八などに興じたという。



渡辺玄対《蕉夢庵景勝図画詩文合巻》

宇土市教育委員会蔵

本展では、絵画に描かれた「理想の隠居」や、細川家の人々が思い思いの隠居をした様子を、残った絵画や資料から紹介し、当時の隠居のイメージを読み解いていく。

関連行事 9月21日(土) ミュージアムセミナー
講師：金子 岳史(当館学芸員)

[美術館コレクション]

第1室 細川家の歴史と美

第2室 熊本の工芸

第3室 熊本の近代洋画

会 期 令和6年7月11日(木)～9月23日(月・祝)

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 林田 龍太

内 容 熊本県立美術館は、古代から現代まで、東洋から西洋までの様々な分野の美術品等を収蔵し、寄託されている細川コレクションもあわせると、そのコレクションの幅の広さは全国的にみても有数の公立美術館である。美術館コレクション展では、細川家伝来の甲冑、大名道具、屏風絵や、熊本ゆかりの書画、仏教美術、陶磁器、漆芸、今西コレクションの浮世絵、戦後美術、フランス近代絵画、西洋版画に至るまで、当館の幅広いコレクションを紹介する。



青木彝蔵《阿蘇風景》当館蔵

関連行事 9月7日(土) ミュージアムセミナー
講師：林田 龍太(当館学芸員)

3 第Ⅲ期コレクション展

[細川コレクション]

肥後金工入門

会 期 令和6年10月12日(土)～12月22日(日)

会 場 本館別棟展示室

主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK熊本放送

担 当 者 萬納 恵介

内 容 肥後金工とは、肥後で鐺などの金属製品の制作をなりわいとした職人たちのことで、その歴史は肥後細川家2代当主・忠興の時代にさかのぼる。忠興は、世に知られた武将である一方で、優れた文化人でもあった。肥後金工の歴史は、その忠興に召し抱えられ、活躍した職人たちにはじまるといわれている。そこから林派、平田派、西垣派、志水派の4派が生まれ、各々の特徴を継承していった。

肥後金工の作品は、「羊羹色」とも称される赤みを帯びた黒色の鉄に、様々な素材によって象嵌や彫金を施すことで細部まで彩られ、その技巧は高い評価を受けている。本展では、肥後金工の名作をはじめとした刀装具や、それによって彩られた刀を展示し、肥後金工の鑑賞方法を知っていただく機会とする。



林又七《桜九曜文透鐺》

永青文庫蔵

関連行事 12月7日(土)ミュージアムセミナー

講師：萬納 恵介(当館学芸員)

4 第Ⅳ期コレクション展

[細川コレクション]

細川家文書にみる幕末事件簿

会 期 令和7年1月10日(金)～3月16日(日)

会 場 本館別棟示室

主 催 熊本県立美術館、熊日日新聞社、RKK 熊本放送

担 当 者 宮川 聖子

内 容 嘉永6年(1853)6月3日、江戸湾の入り口である浦賀沖に、軍艦4隻を率いてアメリカ東インド艦隊司令長官マシュー・C・ペリーが来航。幕末日本を大きく揺るがした大事件「ペリー来航」である。この未曾有の出来事をきっかけに、日本国内では一気に情報収集への欲求が高まり、幕府と全国諸藩は生き残りを懸けて、こぞって情報収集活動を繰り広げた。そのような中であって、肥後熊本藩は良質な情報を入手していたことが近年の研究成果で明らかとなっている。その要因のひとつに、朝廷から京都警衛を拝命したことが挙げられる。

文久期以降、政局の中心は江戸から京都に移り、その結果、池田屋事件、寺田屋事件、禁門の変、近江屋事件など、時代を動かした大事件の数々が京都で起きている。この時、事件の舞台である京都に熊本藩がいたことの意義は大きい。

本展では、細川家に伝来する膨大な歴史資料の中から、熊本藩の京都警衛に係るものや、幕末に起きた事件に係る記録を展示し、熊本藩の情報収集活動の一端を紹介する。また、江戸から明治へと激動する時代のうねりのなかで活躍した、熊本藩10代藩主・細川斉護やその息子・韶邦・護久らのゆかりの品々を併せて展示し、その足跡を辿る。

5 その他常設展

[浜田知明作品]

会 期 2階コレクション展と同時に展示替え

会 場 本館2階浜田知明室

主 催 熊本県立美術館

内 容 熊本を代表する版画家・彫刻家である浜田知明の版画及び彫刻作品約10点を、各期で入替えながら展示している。令和6年度は、前年度に引き続き各期でテーマを設け、浜田の画業を紹介する。

[装飾古墳室]

装飾古墳は全国で約700基確認されているが(平成30年現在)、九州の北・中部に集中的にみられ、県内には約200基が存在する。当館の装飾古墳室では、熊本県の代表的な装飾古墳を実物とレプリカで再現し、考古学ファンや児童生徒、一般来館者に楽しんでもらっている。

Ⅱ 共催展

1 ホキ美術館展（仮称）

会 期 令和6年7月12日（金）～9月1日（日）

会 場 本館第1展示室

主 催 熊本県立美術館、TKU テレビ熊本

担 当 者 香月 比呂

内 容 世界でもまれな写実絵画専門美術館として、2010年11月3日に千葉市緑区に開館したホキ美術館。そのコレクションは、日本を代表する現代作家約60名による、約500点の写実絵画から成る。本展覧会はこのホキ美術館が所蔵するコレクションの中から厳選された66点の作品を紹介するものである。

ホキ美術館のコレクションは、これまで全国様々な美術館を巡回し、日本国内での写実絵画ブームを牽引してきた。今回は、ホキ美術館の常設展示「私の代表作コーナー」の作品が2023年11月に展示替えされることに伴い、同コーナーにて展示されていた大作も出品の予定である。ホキ美術館の新作を含めた名品の数々によって、写実絵画の今に迫る。

関連行事 子ども向けワークショップ（期日未定）

2 美術館に行こう！ーディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

会 期 令和6年9月27日（金）～11月24日（日）

会 場 本館第1展示室

主 催 熊本県立美術館、KAB 熊本朝日放送、熊本日日新聞社

担 当 者 山中 理彩子、藤本 真緒

内 容 絵本『うさこちゃん びじゅつかんへいく』（ディック・ブルーナ 文・絵／まっおかきようこ 訳、福音館書店、1997年）は、ミッフィー（うさこちゃん）が両親とともに初めて美術館を訪れるお話で、幼い子どもが美術作品と出会った驚きと喜びがつつられている。

本展覧会は、この絵本をガイドにして熊本県立美術館の所蔵品を紹介する。ミッフィーとともに親しみを持って作品を鑑賞してもらいながら、美術をみる様々な視点を提案する。また、ミッフィーの生みの親として知られる絵本作家であり、グラフィック・デザイナーのディック・ブルーナ（1927-2017、オランダ）のデザインワークも併せて展示し、ブルーナの創作の秘密に迫る。

さらに、ブルーナのデザイン手法を体験できるワークショップコーナーも併設する。「みる・つくる」の両方を体験できる本展覧会によって、子どもから大人まで、幅広く美術の魅力に出会う機会を提供する。

なお、本展覧会では、2024年に開館する「こども本の森 熊本」と連携した事業を行う。

関連行事 子ども向けワークショップ（期日未定）

Ⅲ アウトリーチ事業（巡回展・ミュージアムバス）

1 スクールミュージアム

県内学校箇所校程度をめぐる移動展 9月～12月実施予定

- ・ 浜田知明、マルク・シャガールの版画作品を展示予定。（6箇所程度）
- ・ 細川忠興甲冑レプリカ体験講座（2箇所程度）※新規

2 ミュージアムバス

県立美術館から遠隔地にあり、県立美術館へ来る機会が少ない県内の小中学校校程度を、美術館へ招待するシャトルバス事業。（大型バス4台程度）

※開催ブロック（教育事務所管内で振り分ける）を、年ごとに変えながら実施予定。

Ⅳ その他の活動

1 インターネット美術館の推進

(1) 「おうちで美術館」等の充実

- ・ 当館ホームページやX（旧Twitter）、YouTube を利用し、自宅でも美術館や制作を楽しんでもらうための「おうちで美術館」等のコンテンツのさらなる充実を図る。

(2) 収蔵品データベースの運用

- ・ 令和3年度末に整備を完了した新データベースによる収蔵品管理システムについて、継続的に収蔵品データの更新を行っていく。

(3) ポケット学芸員の活用

- ・ 令和2年度に導入した「ポケット学芸員」を活用して、収蔵品の画像・作品解説を来館者サービスの向上や来館者増へつなげる。

2 熊本城周辺施設連携事業

当館が熊本城内にあるという立地を活かし、またインバウンド需要の回復による外国人観光客の増加も見込まれることから、地域の行事や熊本市の活動に合わせ、近隣文化観光施設と連携したイベント等を実施し、熊本城周辺一帯の魅力を高めることにより、「地域と協同し魅力あるまちづくりを推進する美術館」を目指す。

イ 教育普及活動について

① 子ども向けワークショップ

(1) 子ども美術館

制作・体験ワークショップ、小中学生向け

(2) かぞくでアート

鑑賞ワークショップ

※「ホキ美術館展」、「美術館に行こう！」展で実施予定。

② おしゃべり鑑賞タイム (①10:30~12:00 ②13:30~15:00)

期 日	場 所	内 容
美術館コレクション会期中の第2・4日曜日、各ワークショップ開催日	各展示会場	「おしゃべりしながら鑑賞できる」時間帯とするもの。ご家族やお友達とお話をしながら鑑賞を楽しめる。

③ ミュージアムセミナー (実施場所：文化交流室、時間 14:00~15:00)

期 日	関連展示会	講 師
5月25日(土)	装・よそおい—武家女性のファッション	学芸員 才藤 あずさ
9月7日(土)	美術館コレクションⅡ	学芸員 林田 龍太
9月21日(土)	憧れの隠居	学芸員 金子 岳史
12月7日(土)	肥後金工入門	学芸員 萬納 恵介

④ おわったアートのポスターさしあげます (10:00~16:00)

期日	場所	内容
未定	文化交流室	過去に全国で開催された展示会ポスターを無料配布

⑤ 鑑賞教材「熊本県立美術館アートカード」の活用

(1) 鑑賞教材「熊本県立美術館アートカード」を活用したイベント・研修

- ・鑑賞ワークショップ「かぞくでアート☆」
- ・くまもとキッズミュージアム(主催:博物館ネットワークセンター)
- ・教員向け研修「教員のための博物館の日」(主催:博物館ネットワークセンター)
- ・令和6年度 第65回熊本県夏期造形教育研修会
- ・学校内研修出前講座(アートカードの効果と活用法について)

(2) 学校での活用

- ・アートカード・セットの貸し出し(鑑賞の授業や来館前の事前学習での活用)
- ・関連ワークシートの提供
- ・アートカード使い方動画、その他制作動画の掲載

その他

- ・特別講演会
- ・ギャラリートーク
- ・ミュージアムグッズプレゼントキャンペーン(缶バッジ、ペーパーバッグ、シールなど)
- ・学校団体利用の対応
- ・鑑賞ワークシートの提供

ウ 永青文庫振興基金事業について

I 修復事業について

- ・ 令和6年度～7年度は、横山大観《雲去来》の修復を行う予定。
- ・ これまで、調査事業の進展によって優れた美術品が確認されてきたが、修復を実施しなければ展示困難な作品もさらに発見されている。これらの中から、特に歴史的美術的価値の高い美術品を選んで、今後順次修復を実施する。
- ・ 修復を完了した作品の中から厳選して指定文化財を目指す。

エ 改修工事について

当館は、令和5年3月で築48年目を迎え、施設・設備は老朽化が進んでいる状況である。そのため、美術品の適正な保管環境と来館者の安全確保及び施設の保全・長寿命化を目的とし、令和6年度は増築屋上・荷解き場防水工事及びエレベータ等増築棟を中心として改修工事を行う予定。

	工事内容（予定）
令和6年度	①増築棟屋上・荷解き場防水工事 ②増築棟エレベータ改修工事 ③増築棟ヒートポンプチラー改修工事
令和7年度	別棟LED展示ケース等改修工事